

ディストピアのタイプ

① 監視型

～ビッグブラザーがあなたを見ている～

一般にディストピアという語から想像されるタイプで、古典から最新作まで多くの作品が当てはまる。人々を政府などが監視したり、特定の人物を多くの人が見ていたりする社会。ここでは、視覚的・聴覚的な意味で監視を行っているものを監視型と分類する。

作品例 ジョージ・オーウェル『一九八四年』、ピーター・ウィアー『トゥルーマン・ショー』、筒井康隆『48億の妄想』、ザチャミン『われら』、星新一『声の網』、三枝零一『ウィザース・ブレイン』

② 圧政・粛清型

～神聖にして不可侵たる銀河帝国皇帝～

監視型に近いが、それに比べると個人個人への監視には至ってはいない社会。一般に強大な権力を持った統治者が警察や軍を使って反対勢力を弾圧し、虐殺や差別などが平然と行われ、大きな格差のある社会になってしまっているものが当てはまる。最終的には圧政を行っていた組織が打倒されるというのが王道のパターンである。シミュレーションRPGでは、このタイプのディストピアな世界を変えるため、主人公たちが立ち上がるというパターンが多い。

作品例 田中芳樹『銀河英雄伝説』、任天堂『ファイアーエムブレム聖戦の系譜・トラキア776』、谷口悟朗『コードギアス 叛逆のルルーシュ』

③ 規制・弾圧型

何かしらの物を保有したり、使用したりすることが禁止されてしまっている社会。規制されるのは本だったり、タバコだったり、チョコレートだったりときまぎらである。①や②の作品では多くの場合嗜好品が禁止されているので、このタイプに当てはまることも多い。

作品例 レイ・ブラッドベリ『華氏 451 度』、筒井康隆『最後の喫煙者』、アレックス・シアラー『チョコレート・アンダーグラウンド』、チャイナ・ミエヴィル『あの季節がやってきた』

④ 人口操作型

人口が増えすぎないように、または減りすぎないように人口の操作が行われる社会。人口が増えすぎた結果起こる問題を解決するためという目的で、ランダムに選ばれた人を殺して人口を抑えたり、老人が増えすぎないように定年で殺されるようになっていたりやり方は様々である。

作品例 星新一『生活維持省』、筒井康隆『定年食』、門瀬元朗『イキガミ』

⑤ 衰退型

～人類は衰退しました～

何がしかの原因で人類がバカばかりになってしまったり、肉体の面で弱体化してしまったりした社会。衆愚化した結果、不安定になってしまった社会が描かれることが多い。このタイプの作品はしばしば未来が舞台として描かれ、現実の社会の衰退への皮肉が描かれる。

作品例 パオロ・バチガルピ『第六ポンプ』、筒井康隆『ビアンカ・オーバースタディ』、マイク・ジャッジ『26世紀青年』

⑥ 情報開示型・道徳型

ありとあらゆる個人情報オープンなものになり、プライバシーの領域がきわめて狭いものとなった社会やお互いに優しくし合う気持ちがある社会の規範と化してしまったりした社会。このタイプではその世界に属している人々がその世界を支持し、望んでそのような社会になっている。そんな社会に息苦しさを感じている人物の視点で描かれることが多い。

作品例 伊藤計劃『ハーモニー』、里好『デイス魔トピア』、本広克行『PSYCHO-PASS サイコパス』

⑦ 洗脳型

人間の脳に対して支配が行われマインドコントロールされている社会。その結果として統一された意志を持った集団が社会を構成するようになってしまっている。社会が監視されているという点では①と似ているが、ここでは①と比べ人々の脳に至るまで直接的に支配しているような作品をこのタイプに分類することになっている。

作品例 原恵一『映画クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶモーレツオトナ帝国の逆襲』、ワチョースキー兄弟『マトリックス』、カート・ウィマー『リベリオン』

⑧ 無秩序型

核戦争などで、人類社会が崩壊し、無政府状態となってしまった結果、戦争や犯罪が平然と行われており、誰も止められないような状態になってしまった世界。そうした社会で生き抜く者たちのバトルが描かれることが多い。

作品例 原作：武論尊、作画：原哲夫『北斗の拳』スジム・トレス『アルマゲドン 20XX』ウォルター・ミラー・ジュニア『黙示録 3174年』

⑨ サバイバル型

何かしらの事情で殺し合いなどが行われる世界。孤島のような閉鎖された環境で基本的に

ゲーム的な世界観で、ルールが設定された中で、人殺しを行うことが多い。法を犯しても許されたりする。ゼロ年代に流行ったタイプである。デス・ゲーム型と呼ばれることも。
作品例 高見広春『バトルロワイヤル』井上淳哉『BTOOOM!』、筒井康隆『銀齢の果て』、東映『仮面ライダー龍騎』

⑩ 諦観型

滅亡が決定的になってみんなが諦めている世界。ここまで来ると絶望を通り越してある程度平和になっていることが多い。このタイプの作品は OUSF の前回の部誌『滅亡 SF』でも紹介されている。

作品例 田中ロミオ『人類は衰退しました』、芦奈野ひとし『ヨコハマ買い出し紀行』